



鶴からの手紙

真鶴中学校だより 第二十四号

2022.7.20
責任者
市川 麻美

観測史上最も早い 梅雨明けから

六月二十七日に観測史上最も早い梅雨明けが宣言され、連日の「猛暑」の中、熱中症対策に追われ、気が気でない日々でした。暑い中(六月二十八日)、体育館で町の教育講演をしてくださった講師の方が、「古い校舎なのに、きれいになっていきますね、生徒さんの使い方がよいのでしよう。とてもすがすがしい。」とお褒めの言葉をいただきました。とても誇らしかったです。暑い中いつもきちんと清掃活動する真中生、ありがとう。

三年生にとっては最後となる『夏』の小田原・足柄下地区中学校総合体育大会が行われました。

サッカー部は延長戦の上、PK戦を見事ものにして一回戦突破。バスケットボール部は二年生チームながら善戦し、一勝を勝ち取ることができました。バレーボール部は惜しくも準決勝で敗れましたが、見事に県西大会出場となりました。おめでとう。夏休みの試合も応援しています。

ところで、『辛』という漢字に『一』を足すと『幸』という漢字になりますよね。諸説あるようですが、『辛さと幸せは紙一重』ということでしょうか。『辛いこと』がそのまま『辛い』でおわってしまうのか、そのことを糧にして『幸せ』へと転化させるかは、その人次第ということかもしれません。辛い経験をしたら、一段階(一工夫、一歩前に…)進めると、いいこと幸福につながるということでしょうか。また、ちよつとしたことでも、『幸せ』と感じる、『幸せ感じ上手』になることも、日々いろいろなストレスを感じる生活の中では、重要なポイントかもしれません。是非、こんなことも心にとめてこの夏を過ごしてみてください。

八月二十

九日の二学期始業式に、元気な皆さんと笑顔で再会することを楽しみにしています。



『着物に力を借りて、 原爆を語る』 次世代へ 伝えたいこと

六月二十八日に、小学六年生や地域の方も参加し、町教育月間事業教育講演会が開催されました。講師は、福島富子(神奈川県原爆被災者の会副会長)さん。生後七か月に、長崎に投下された原爆により被爆をされました。当時の記憶はありませんが、兄から聞いたことを元に、次世代に伝える「証言活動」や「核兵器廃絶運動」などを行っています。朗読を含めながら、原爆の怖さ、今も行われている戦争の悲惨さなどについて話されました。

戦争の恐ろしさは、社会の時間などの教科書で知っていたけど、実際に体験した人ではないと分からない貴重な話を聞きました。戦争の恐ろしさを、次に伝えていきたいと思いました。

また、同じような戦争が起こらないように、この世から兵器をなくしていった方が、絶対にいいと思いました。

一年一組 藤田悠喜

被災者のリアルな話を聞いて、改めて戦争はただ人が死ぬだけであって、何の得にもならないことが分かりました。た

だ人が死ぬというのは、辛く、悲しいことだと実感しました。
今後も、日本が平和であることを望みます。
一年一組 尖花菜

朗読や福島さんの話は、とても生々しくて、文字に書き起こすのもためられるようなものでした。

戦争は人間を人間でなくしてしまう、死体を見ても何も感じなくなってしまう。というのは、とても恐ろしいことだなと思います。相手国の人を責めることは、こちらと同じようなことをしたのだからできないが、「戦争を絶対に始めてはならない」というのは、全世界の人が共通して心に留めておかなければならないと思います。
二年一組 大友優佳

「原爆被災者の話」は、何年後かには聞けなくなってしまうと思うので、とても貴重だと思いました。戦争はもう二度と繰り返してはいけないと思います。今の日常が、どれだけ大切でありたいものなのか、考えさせられました。「平和」とは何なのか、「命」とはどれだけ尊いものなのか、改めて考えるべきだと思います。そして被災者の方々の思いを忘れず、今を大切に生きていきたいと感じました。
二年一組 平敷七奈美

改めて戦争で失う物やしてはいけな理由が分かりました。戦争の頃に小さくても記憶が残るほど大変な、大きな事だと知れました。戦争をこれから起こさないために、自分たちが昔のことであったりしていくことは大切なことだと思いました。

三年二組 向笠瑚乃

今回話を聞いて、戦争の怖さを改めて感じました。私はよく戦争についてインターネットや YouTubeを通して調べていました。ですが、私の全然知らないことや実験した方にしか分からない話を聞くことができ、とても勉強になりました。

今後、今回聞いた話を元に調べ学習を続けて、戦争を二度と繰り返さないためにはどうすれば良いかを、考え続けていきたいと思います。

三年二組 菊原初華

〜ひなづる幼稚園 ふれ合い実習〜

七月五日に家庭科の授業の一環で、ひなづる幼稚園の園児とふれ合う実習が行われました。

真鶴子ども宣言や幼小中連携事業でも、幼児とふれ合うことで、命の大切さ

や、自らも周りに支えられて生きてきたことを知るきっかけになればといわれています。

幼児は発想

力や探究心、好奇心があるというのは授業で理解していましたが、実際に体験してみると、こんなにもあるんだということを知って驚きました。幼児の中には、サイコロを使って自分で遊びを作ったりしていて、本当に面白いと思ったし、その遊びと一緒にできて、とても楽しかったです。

また、私は幼児によって飽きてしまう遊びや興味を示して遊ぼうとしてくる遊びがあったりと、一人ひとりの『興味』の違いがすごく自分にとって印象に残っています。

『この子は、こんな遊びが好きで、あの子はこんな遊びが好きなんだ』という気持ちがあり、とても楽しかったし、とても幼児についての勉強になりました。実際に体験すると、大変さが分かったりして、多くのことを実感できると思いました。

三年一組 松尾啓佑



小さい子とふれ合うことは、ほほいけれど小さい子が好きなので、一緒に遊べて本当に嬉しかったです。始まる前は不安だったけど、自分から話せたい、楽しかったの、また一緒に遊びたいと思いました。それと、違う年の子とも遊んでみたいと思いました。

三年二組 富崎杏

〜地区中体連 総合開会式〜

七月二日(土)に小田原・足柄下地区中学校総合体育大会総合開会式が、小田原の川東タウンセンターマロニエで行われました。今年度は各部のキャプテンが集まり、翌日からの大会が思い出に残るものになるよう、連絡事項の共有がなされました。

また、各学校の紹介も行われました。本校は、女子バレーボール部部長の春原穂高さんが行いました。その時の紹介文です。

真鶴中学校は、海と山に囲まれた環境にあります。全校生徒が一〇二人と

少ないですが、みんなが互いを認め合い、一人ひとりが安心して個性を発揮し、活気のある学校生活を送っています。

また、真鶴中学校の自慢は「あいさつ」です。あいさつは、人と人、心と心をつなぐ大事な手段で、相手を大切に思う気持ちの表れだと思います。あいさつが自然に飛び交う真鶴中学校は、「一人ひとりを大切にしている学校」だと言えます。

私たちの総体は「結果よりも…：想いを大切に」という気持ちで臨みたいと思います。

お世話になっているすべての方々、対戦相手、そして仲間への感謝の気持ちを胸に抱き、お互いを大切にすることを目標として励ましあい、真鶴中学校一丸となって大会に臨みたいと思います。

この大会やコンクール等の結果は、九月号で紹介していきます。ご期待ください。

